

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社高梨ウェルビーイング		
事業所名	あったかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪588		
自己評価作成日	令和5年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube		
訪問調査日	令和5年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム自体静かで落ち着ける環境の中にあり、四季の移り変わりを感じながらゆったりと生活しています。
植物の多い玄関先では日光浴も楽しめ、天井の高い造りとなっているフロアは利用者が日中落ち着いて過ごせる空間です。
また何ととっても食事担当の毎日の手料理が美味しいため、食事を楽しみに美味しく過ごせる点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で全体での外出行事や地域行事への参加などは難しい一年となりましたが、ホーム内では季節の行事やレクリエーション、利用者の誕生会なども取り入れて、利用者の楽しみや活動の幅を広げています。面会を控える家族に対しても定期的な電話連絡を通して近況を報告して家族の安心感を高めています。次年度に向けては、ホーム内での行事には家族の方をお呼びして、家族も巻き込んで行事を充実させていくことや、新型コロナウイルスの感染状況を見て、地域の方との関りや外出機会を増やして、利用者の生活の幅を広げていくことも目指していくことにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者とスタッフは理念に基づき現場で仕事をしている。利用者の安心と尊厳のある生活を可能な限り自立して営むことが出来るよう、個別のケアを取り組んでいます。	認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境のもとで食事・入浴・排泄等の日常生活の世話及び日常生活の中で心身の機能訓練を行うことにより安心と尊厳のある生活を可能な限り自立して営むことができるよう支援する事を理念に掲げ、職員全体で共有し日々取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域住民として交流しており、金鱗湖の関係も続いている。今年は近隣の方とも話し合い、皆様と一緒に楽しんでもらうためイベント等の開催も考えている。	今年度はコロナ禍の影響もあり、地域行事も中止となり地域との積極的な交流とまでは至りませんでした。今後は社会の情勢なども確認してボランティアの受け入れや地域行事への参加などを検討しています。	コロナ禍収束を見据えて、地域との交流を今後どのように進めていくかについても検討し、地域との交流が少しずつ前進できるとよいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍が影響し、なかなか地域貢献に向けた事業所としての動きが取れなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍の影響で取り組みませんでした。今後は2ヶ月に1度の開催を予定している。	今年度(令和4年度)は、コロナ禍ということもあり運営推進会議は定期的な開催とまでは至っていない状況であり、次年度以降の定期的な開催が望まれます。	定期的に運営推進会議を開催して参加者との意見交換などを通して貴重な意見を収集し、サービス向上につなげて行けることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上市の担当課に連絡を入れることが多いため指示を仰いでいる。ホーム側の質問には丁寧に回答を受けることが出来ており、今後も視野協力機関と連携し運営していきます。	運営上相談事が生じた際には市の担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰ぐことができています。担当課とは密に連携を図りながら必要な情報を収集して運営に反映させており、市とも協力関係を築いて運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。危険な状態にある場合は家族と相談しています。代表者及び全ての職員が身体拘束をしないケアの内容を正しく理解し、取り組んでいます。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、毎月の職員会議の中で身体拘束の発生が無いかについて全体で確認しています。職員一人一人の意識も高く、日ごろから身体拘束をしないケアを実践しています。	今後に向けては、身体拘束廃止に向けた研修の開催や身体拘束の発生が無いことについても身体拘束廃止委員会の議事録への記録も望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないと思いますが、スタッフ全員が注意するようにしています。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なことは入所時に説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、退所時や認知症の進行状況などを理解して頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や必要時にその都度要望を聞き、納得のいく対応が出来るよう努めている。	家族からの意見や要望についてはこまめに電話連絡を入れてその際に確認しています。利用者からの意見や要望は日常会話から収集しています。意見や要望等が表出された際には速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを大切にしています。カンファレンスやミーティングにおいて意見・提案を取り上げ検討し実施している。	管理者は日頃から職員との会話を大切にしており、都度意向や要望等会話を通して確認しています。また定期的なケアカンファレンスを通して支援に関する意見を確認し、支援方針や職員からの意見の共有化を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が不満なく就労してもらえるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモートにて必要な研修は受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は同業者との交流や勉強会は参加できませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前はご本人が安心できるよう昼食への参加又は家庭訪問、お試し入居を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定が決まったら、ご本人・ご家族の不安が解消できるよう話を進めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・ケアマネジャーのお話を伺い、入居して頂きます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員は家族のような形をとり、毎日を過ごしていきたいと思えます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向を尊重しながら家族とも共働の形をとり支援に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との触れ合いを多くし、なじみの場所が途切れないように努めます。	馴染みの人や場所との関係継続の支援に向けては、コロナ禍により馴染みの場所への外出は難しいですが、家族や知人との電話の取り次ぎを通して関係性を継続しています。今後は外出なども許容していく予定としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりと楽しく毎日を暮らしていけるよう支援していきます。		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は特に面会などすることはなく、必要に応じて支援するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の思いや訴えなどの言葉は岐路器やノートで周知し、意向については会話の中から日々支援しています。	利用者の思いや意向については職員が日常会話の中から収集し日々の生活の中での反映に努めています。また、ケアプランの作成および更新時にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題を抽出しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話しや家族との面会時の話などからもこれまでの生活歴や生活環境を検討し努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせながらも集団での時間も大切に、いち早く体調変化に気づけるよう全員で記録や声かけを徹底しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いを基に計画を立てています。アセスメントで抽出した現状や課題から会議で職員の現場での意見も踏まえ、目標や達成度について振り返りモニタリングしています。	アセスメントで抽出した現状や課題に基づき、担当者会議を開き、職員の意見を総合的に踏まえケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の達成度については定期的にモニタリングを行い確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは細かく記録に残し情報共有しながら見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの意向やペースに合わせながらその時々生まれるニーズに対応し、24時間の生活を支えられるよう取り組んでいます。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・民生委員・ボランティア・近隣の方たちに協力してもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・ホームドクターとの関係の中で医療が受けられるように支援しています。提携先医療機関とは月2回の往診と通じて連携を図っています。	ホームの提携先医療機関とは月2回の往診を通して連携を図っています。利用者の体調に変化が生じた際にも迅速対応できる体制としています。夜間救急の際には市内の総合病院へ速やかに搬送し必要な医療が受けられるように努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主にかかりつけの医師の指示や服薬などの細かい注意点に気をつけながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スタッフはご本人や家族に対して情報交換するなど協力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については入居時に方針を説明し、その時期が来たら再度相談し対応しています。重度化が進んでいる場合は主治医や家族と今後の方針について検討するようにしています。	重度化した場合や終末期の在り方については、ホームとして取り組める範囲を利用契約時に家族に丁寧に説明しています。ホームで生活を送る中で重度化が進む際には、主治医、家族と今後の方針を検討し、家族とも情報共有を図り対応していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症・急変時の講習やzoomを受け、スタッフが実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の訓練と自主訓練を行っています。水害のリスクについてもハザードマップで確認しているほか、備蓄やランタン、井戸も整備しています。	災害時に備え年2回避難訓練を計画し、令和4年12月に火災を想定した訓練を行っています。水害のリスクについてもハザードマップで確認しているほか災害に備え食料の備蓄のほかランタンや井戸なども整備しています。	今後に向けては地域の協力体制について運営推進会議等で呼び掛けていくことや作成義務となった事業継続計画(BCP)についても段階的に準備を進め作成し、災害発生後における運営方針の明確化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活を尊重しながら本人のプライドを傷つけぬよう言葉かけや接し方に注意しています。日々の申し送りや記録、会議を通じて利用者の言動を振り返り、適切な対応が図れるよう取り組んでいます。	日々の申し送りや打ち合わせ、職員会議を通して利用者への言動や行動を振り返ることで職員の意識強化につなげています。トイレ誘導時や居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にしながら、本当に本人がしたいことを聞いたりしています。そのためにも普段のコミュニケーションを多く図るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは多少ありますが、その人のペースを大切にしながら言葉かけし、確認し希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洗濯、衣服を一緒にたたんで整理したり、身だしなみやおしゃれには気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では出来るだけ利用者にも関わって頂き職員と一緒に準備や片付けを行っています。コロナ禍は行えていませんが、季節の良い時期には外食に出かけ食事の楽しみにつなげています。ホームには食事担当の職員を配置し、日々手作りで美味しい食事を提供しています。	食事は日々手作りで、毎日おいしく、栄養バランスの取れたおいしい食事を提供しています。食の見た目にも配慮して味はもちろんのこと視覚的にも楽しむことができるように盛り付けにも配慮し、日々楽しい食事となるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、水分量、食事量はその都度チェックし、把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後スタッフと一緒に口腔ケア・義歯チェックは必ず行い、歯ブラシ等の消毒も徹底しています。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」を用いながら記録し排泄状況を把握しています。一人ひとりの状態に応じて見落としのないよう定時の声かけや誘導によりお連れし、排泄できるよう支援しています。	利用者一人ひとりの排泄状況については記録システムに入力し、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導により本人のタイミングを大切にトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を見ながら朝の牛乳提供や食事量・形状・水分調整・散歩等を個々に工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調やペースを考慮し、週2～3回入浴できるように支援しています。入浴時は浴室を十分暖めながら、職員が必ず介助につき安全に行えるよう支援しています。	利用者の体調やペースを考慮し、週に3回入浴できるように支援しています。職員がマンツーマンで対応し丁寧に事故無く入浴できるように対応しています。入浴を楽しめるように、季節風呂として菖蒲湯やゆず湯なども行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ昼寝をする方もいたり様々です。体調を崩さない為にも生活リズムには気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には見守りや注意を払い、医師へ相談や報告をしながら量の調整などの確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が今出来ることに着目し、喜びや自信、気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は毎日散歩を行っていましたが、コロナの影響でなかなか難しい状況でした。玄関先での日光浴などは最近増えてきています。	コロナ禍の影響もあり外出や外食の行事は自粛していますが、周辺の散歩や玄関先のベンチで日光浴をして頂くことで利用者の気分転換につながっています。今後に向けてはコロナ禍の状況を見て、散歩や買い物などに出かけられるよう取り組むことを目指しています。	コロナ禍の状況を見て、外出も今後増やしていくことも検討しているため、利用者が戸外に出かけられる機会が少しずつ増えていけるよう取り組まれることを期待します。

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が所持はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方が手紙を出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や風が入るだけでなく、外の景色(花や木々の整備)も良く楽しめるよう工夫しています。リビングの装飾も季節ごとに利用者の手がけ季節を感じられるようにしています。	利用者が集うリビングスペースは天窓からの日差しも差し込み明るい雰囲気です。リビングの装飾も季節ごと工夫し、季節感が感じられるようにしています。日々の掃除により衛生面に配慮しているほか、消毒や換気も徹底し感染予防につなげています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの方がホールで過ごされています。その時の利用者の過ごしたい場所にも配慮しながら言葉掛けするよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は居心地よく過ごせるよう馴染みの物や家具を設置したり、ご本人の要望を受け入れ尊重しています。日々の掃除をはじめ、転倒の危険性がある物は整備しています。	居室内でも居心地よく過ごせるように、これまでの馴染みの物の持ち込みを可能とするほか、家具等のレイアウトについても本人や家族の要望を尊重しています。衛生面についても日々の掃除により徹底しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人の「出来ること」を見つけ尊重しながら全員が仲良く自立した生活が送れるよう見守り、工夫しています。		